

木と人の暮らしとの関わり

◆家の材としてよく使われる樹種

アスナロ、イヌマキ、エゾマツ、カシ類、ケヤキ、
コウヤマキ、スギ、ヒノキ、サワラ、モミなど
・土台>じょうぶでかたいクリやヒノキ、アスナロなど
・柱>まっすぐなヒノキやスギ、マツ類など
・屋根>まっすぐで水に強いヒノキやサワラ、スギなど
・床>やわらかなスギ、ヒノキ、モミからナラ類、ブナ、
カバ類、かたいイスノキまでさまざま
* 檜皮葺(ひわだぶき)・・・ヒノキの外側の樹皮でおおい
葺いた屋根 →日本建築の特徴的な屋根工法

◆暮らしの道具(家具など)に使われる樹種

イチヨウ、キリ、クハ、ケヤキ、コブシ、トチノキ、
ヒノキ、モッコク、クロモジなど
・たんす>木目の美しいケヤキやヤマグワ、吸湿性や
虫よけ効果のあるキリ
・そろばん>枠はコクタンやカシ類、珠はかたさと適
度な重さのあるツゲ、ヒイラギなど
・はんこ>かたいツゲ、マユミ、ツリバナなど
・爪楊枝>香りのよいクロモジは最高級品、使い捨て
用はミズキ、ヤマナラシ、オノエヤナギなど
* 樺細工(かばざいく)・・・ヤマザクラなどのサクラ類の
樹皮を茶筒やうつわ、箱などにはりつけてつくられ
たもの。秋田角館の伝統工芸。

◆器(うつわ)などに使われる樹種

カエデ類、クヌギ、ケヤキ、サワラ、スギ、トウヒ、ハル
ニレ、ホオノキ、モミなど
・削ってつくる容器>ブナ、ホオノキ、クヌギ、ナラ類、
カエデ類、シュロなど
・薄板でつくる曲げもの>ヒノキやスギ、アスナロ、
マツ類、サワラなど
・樽と桶>耐久性・抗菌性のあるヒノキやサワラなど

◆祭祀によく使われる樹種

サカキ、シキミ、ヒイラギ、ヒサカキ、クロマツなど
・門松>常緑のマツの枝(正統では左にクロマツ、右に
アカマツ)を飾り、豊作を招く神様を招き入れる
* 日本では古来より植物や先端が尖ったものには、
神様の力が宿ると考えられており、榊(サカキ)は
神籬(ひもろぎ)、つまりは神様が降り立つ依り代と

された。そのため、サカキは神棚に祭られたり玉串
として神事に使われた。

一方、榊(シキミ)はその香りの良さと常緑である
ことから、神聖なものとして平安時代以前は神事に
も仏事にも用いられていたと思われる。それがい
つのまにかシキミは仏事に、サカキは神事にと使
い分けられるようになった。サカキは関東以北で
は少ないため、ヒサカキが代用される。

◆食用(主に実や種)になる樹種

イチヨウ、ウメ、カキノキ、ヤマモモ、ムクノキ、エノキ、
クワ、グミ、トチノキ、カシ・ナラ・シイ類など
* スダジイやマテバシイの実ほとんどあくがなく、
生でも食べられる。炒るとよりおいしい。
* ハリエンジュやフジの花は天ぷらやあえものにし
て食べられる

◆草木染によく使われる樹種

キハダ、クサギ、スダジイ、タブノキ、ヌルデ、
シャリンバイ、コブナグサ(草本)など
* 草木染は花、つぼみ、実、樹皮、枝葉、根などを煮出
した染料で糸や布を染め、それを媒染剤に浸すこ
とにより染着と発色をよくする
黄八丈>黒や灰色はスダジイの樹皮、鶯(とび)色は
タブノキの樹皮、黄色はコブナグサを使う
大島紬>シャリンバイの樹皮や根、枝で染料をとり、
鉄分の多い泥で発色させて濃いこげ茶色をだす
五倍子>「ふし」ともいう。ヌルデに発生した虫えい
(ヌルデシロアブラムシ)を乾燥させたもの。黒色
の染料に用いる。多量のタンニンを含んでいる。
お歯黒にも使われていた。

◆薬用にされる木

ウメ、サンシュユ、センダンなど
ウメ>青梅が生薬の「烏梅(うばい)」の原料となる。
鎮痛・解毒作用があり、風邪薬や胃腸薬に用いる。
サンシュユ>熟した実の果肉を干したものを生薬とす
る。八味地黄丸に配合され滋養強壮効果がある。
センダン>黄熟した実の果肉が生薬「苦楝子(くれん
し)」となる。整腸、鎮痛薬として用いられる。
* ウメ、サンシュユは薬用として中国・朝鮮から渡来